

## まちづくりの基本目標と日野駅交通広場のデザインの考え方

日野駅交通広場の整備は、日野駅改良及び駅周辺地区整備計画「生活心育成・整備計画」のまちづくりの基本目標や方針に基づき、ユニバーサルデザインの考え方により整備を進めます。

### ②市民生活を支える

- バス等公共交通機関の充実を図る。
- 歩行者や自転車の安全な生活動線を確保する。

### ①拠点性を高める

- 交通結節点機能の充実を図る。
- 福祉に配慮した歩行者空間の形成を進める。

### ③外来者をもてなす

- 通勤・通学時のバスの本数の増加などを誘導するとともに、通勤・通学路の交通安全性を確保する。

### ～ ユニバーサルデザインに基づく、だれもが利用しやすい駅前広場の実現 ～

- ①平坦で歩きやすく、段差の少ない歩行経路を確保します。
- ②バス、タクシー、一般車などの動線が明確な、わかりやすい施設配置とします。
- ③わかりやすい案内サインや視覚障害者誘導用ブロックによる安全な誘導を行います。
- ④バスやタクシーなどに乗りやすい歩道の高さや構造を採用します。
- ⑤市民や来訪者の憩いや休憩の場所となる広場や施設を配置します。
- ⑥日野市の顔としての都市景観や環境に配慮したデザインを目指します。

### 【ユニバーサルデザインについて】

- これまで、障害者や高齢者が生活する上でのバリア（障壁、障害、不便）を取り除くという「バリアフリー」の考え方が中心となっていました。
- 現在は、できるだけ多くの人々が共通に利用しやすいデザインとするとともに、多様な手段を自由に選択できるようにして、だれもが暮らしやすいまちを実現するという「ユニバーサルデザイン」の考え方に基づくまちづくりが必要とされています。
- まちづくりにおいては、「多様な立場の方々の参加・協働により計画立案や整備を行うこと」、「整備された施設をより利用しやすくするための管理や運営面でのサポートを充実すること」、「施設整備後も利用者の意見を反映しながら、より利用しやすい施設に改善していくこと」などを継続して実践していくことが大切となっています。

日野市 まちづくり推進部 都市計画課  
〒191-8686 日野市神明 1-12-1  
TEL 042-585-1111 (代)

日野駅改良及び駅周辺地区整備計画（生活心育成・整備計画）

## 日野駅交通広場のだれもが利用しやすいデザイン

『やさしさとふれあえ、“ほっ”と一息つけるまち』を目指して

### 日野駅交通広場改良整備イメージ図



注) 現在の整備計画とは若干異なります。

日野市 まちづくり推進部 都市計画課

## 1. 歩行者を優先した歩道

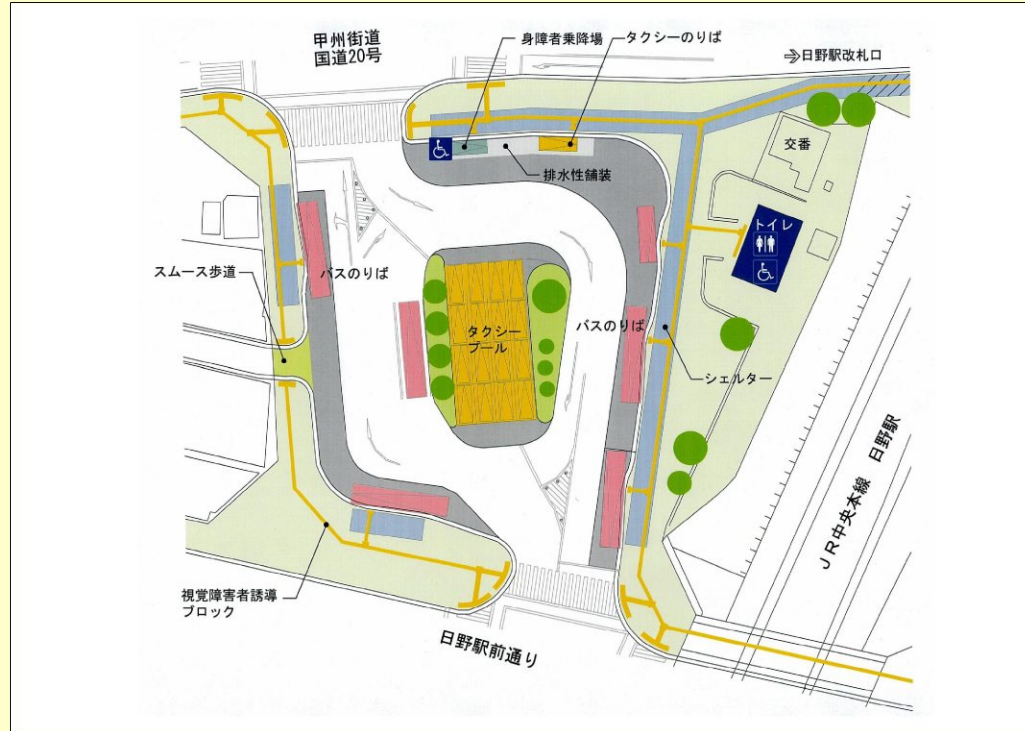
- 周辺道路の機能への配慮と、歩行者ができるだけ車道を横断しなくて済むように、現在4ヶ所ある交差点を2ヶ所とします。
- 歩道は平坦で、雨の日にも歩きやすいように、透水性舗装とします。

## 2. 視覚障害者誘導用ブロック

- 日常的な通行ルートや各乗降場へのルートに連続的に視覚障害者誘導用ブロックを設置します。
- 弱視の方などが黄色の視覚障害者誘導用ブロックが見やすいような舗装とします。



# 日野駅交通広場のユニバーサルデザイン



## 3. シェルターの連続的な設置

- バス、タクシー、障害者スペースまで、駅から傘をささずに移動できるように、主要な歩行者動線にシェルターを連続的に設置します。



## 4. 乗り降りしやすいバス乗降場

- 歩道にバスが近づきやすくするために、歩道端を少し車道側に張り出した形状とします。
- バス乗降場では、ノンステップバスなどへの乗り降りがしやすいような歩道の高さとします。



## 5. タクシー及び障害者乗降場

- タクシー、一般者乗降場では、だれもが乗り降りしやすく、車道部との境界がわかるように、段差0cmとし、高低差2cmを斜めにすりつけます。
- 雨の日にも快適に乗り降りできるように、歩道に接する車道の舗装を水溜りのできない排水性舗装とします。



## 6. わかりやすい案内サイン

- 目的の場所が一目でわかるように、ピクトグラムを用いたわかりやすい案内サインとします。
- 表示面は、弱視の方などにも見やすいように濃い青色に白い文字のデザインとします。
- バス乗り場のサインは数字をかたどったレリーフ文字をサインに取り付け、視覚障害者の方がバス乗り場の位置を確認できるようにします。



## 7. ベンチ及び植栽

- だれもが気軽に交流や休憩ができるように、緑陰となる植栽やベンチを設置します。
- バスやタクシーの待合せのため、乗降場に、座りやすいベンチを設置します。

